団体名：新日本婦人の会苫小牧支部あゆみ班
回答日：令和７年２月２７日

要望書（回答）

苫小牧市では、高齢者交通助成の見直しにより、高齢者フリーパスを今年３月で販売終了とする方針を出されました。この制度は、高齢者が健康に暮らせるとともに、生きがいを持って生活できるようにと、「生きがい創出」を目的に創設されたと伺っています。 高齢者が健康寿命を伸ばし、元気に生活できるようにするために、生きがい創出は欠かせません。市が行った利用者アンケートでも、利用目的は「買い物」や「友人との交流」「趣味やスポーツ」が多く、週３回か４回の利用が最も多い結果となっています。

また、高齢者であっても仕事を続ける方は少なくなく、働くことで大きな社会貢献につながっています。通勤でバスを利用する方の中には、短時間勤務ではあっても週５日から６日働いている方もおり、高齢者フリーパスはなくてはならないものです。

2026 年には苫小牧市民文化ホールが完成します。用事がなくても行きたくなる居心地の良い「居場所」市民文化ホールと広報「とまこまい」で紹介しています。高齢者フリーパスがあることによって気軽に足を運び駅前を散策したり、市民文化ホールで豊かな時間を過ごすきっかけになると考えます。

これまで市は、高齢者フリーパスの取り組みを福祉目的で取り組んできましたが、高齢者の「生きがい創出」に加え、「高齢者の通勤支援」や「賑わい創出の一環として駅前に高 齢者を誘導する手段」など、まちづくりの観点で高齢者フリーパスを継続することが大変有意義だと考えます。 さらに、1 月 22 日付けの地元新聞で、13 路線のバス減便と時刻表の全戸配布中止を報じています。道南パスでは、運転手不足に加え経費節減と説明しています。高齢者フリーパスを継続し、さらなるバス利用促進策を進めることは、道南パスの経営を応援することにもつながると考えます。

よって、高齢者フリーパスの廃止を見直し４月以降も販売を継続することを強く要望致します。

【回答】（福祉部総合福祉課　担当）

市では、高齢者交通費助成事業として、市内路線バスを１乗車 100 円で利用できる高齢者優待乗車証の交付と１か月 2,000 円で市内路線バスを乗り放題で利用できる高齢者フリーパスを販売する２事業を実施してきましたが、令和５年 12 月の市内路線バス運賃改定以降、事業実施に伴う市費負担が大幅に増加したことから、持続可能な制度とするために事業の見直しが必要な状況となっていました。

現状では、高齢者フリーパスの利用者数は高齢者優待乗車証の利用者数の５％程度である一方、事業費では高齢者フリーパスに高齢者交通費助成事業全体の 50％を越える事業費を投入していたことから、事業内容の見直しに際しては、これらの現状認識に加え、利用者アンケートを実施し、利用実態を把握の上で変更内容や影響が極力小さくなるよう検討を進め、フリーパスの廃止並びに高齢者優待乗車証の維持に至ったものでございます。

本事業は、ボランティア等の社会的活動への参加を促す目的で実施をしているとこ

ろですが、「高齢者の生きがい創出」についても、重要な取組であると認識しております。

しかしながら、持続可能な制度とするためには、応分の負担をお願いしなければならない状況であり、1乗車100円乗車を維持することにより、多くの方がこれまでと変わらない利用方法でバスに乗車できること、ワンコインで気軽に外出できる環境が維持されるものと考えております。

利用者アンケートからも高齢者優待乗車証の利用者では、年に数回や月に１回から３回程度の頻度でバスを利用されている方も相当数いることから、さらなるバスの利用増加により高齢者福祉の増進につながるよう、今後も事業周知に努めてまいりたいと考えております。